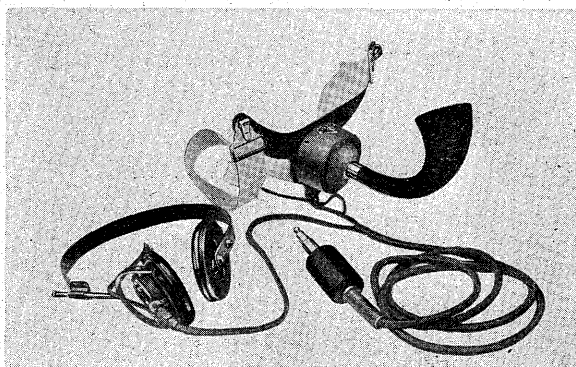


交換手用胸掛送話器*

電話交換臺に於ては交換手は色々の操作の便利のため多くの場合送受話器の代りに、胸掛送話器及載頭受話器より成る胸掛電話機を使用致しますのは周知の事實であります。

弊社は本機器に對し従来より、内外の製品を比較研究し其の長所を採り特徴ある製品を市場に出して來たのでありますが、更に電気音響的或は機械的に幾多の検討を加へて此處に新製品を完成致しました。本文に於ては胸掛送話器に就て紹介致します。

本装置には既に富士型の各種電話機に使用されて定評のある、優秀な特性の送話器を使用し且其の音源に對する關係位置或は取付方法等に對し電気音響的の考慮が配られてゐます。



第1圖 交換手用胸掛電話機

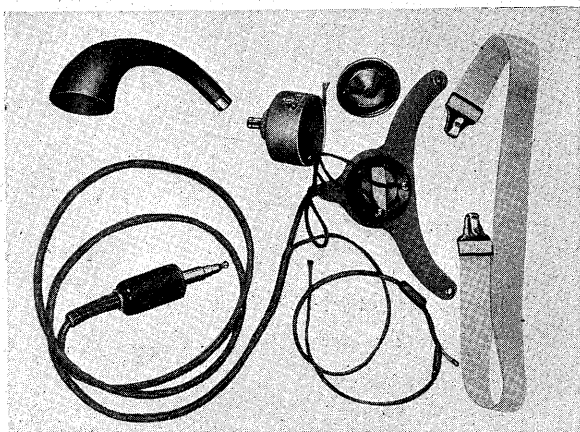
送話器は皿型（マイクロホン・カプシユール）であるため送話器の取換は至極簡易となり、交換手回路の色々の電壓に對しても送話器を取換へることに依り其の儘使用されます。

次に製造方法並に材料等に對して色々の改良が加へられ、機械的に優秀にして外觀の優美な且取扱使用の容易な製品を得たのであります。

其等の二三の點を挙げますと、可動部分のマウスピースは半球のボールジョイントにて本體と嵌合されてゐますが、従来より此の部分が使用するに隨つて緩みマウスピースの位置の固定が困難となり甚だしきは金屬材料の摩耗のため使用に堪へなくなることがあつた

のであります。本器は此の點に改良を加へ、適當な壓力にて廣い面積に於てデョイントされてゐます故永く使用するも緩むことなく且摩耗も可及的に減少せしめ得たのであります。

又本器は交換手の胸上にありて長時間使用されますため交換手の衛生並に能率上より出来るだけ重量を軽減する必要があります。此の點製造方法の改良並に材



第2圖 胸掛送話器部分品

料の適當な選擇により、重量約175瓦、従來の市場にある製品より約二割近く軽減したのであります。

胸當板は従来ニッケル鍍金か或は黒色塗焼付の表面仕上をなし其の裏に革を張つたのでありますが、最近此の革を除き胸當並に送話器匣の表面をフェルトン仕上とし、薄藤色の軟かな優美な外觀を呈することとなり皮革統制上よりも國策型の製品を得たのであります。吊紐の留金具と胸板の間に生ずる雑音も亦此のフェルトンにより著しく減少し得ることとなりました。

なほ裏革付き胸當の製品も需要に應じて製作することにはなつてゐます。

第一圖は本胸掛電話機 F.mtg. 1 を、又第二圖は胸掛送話器 F.mph. 25 の分解せる状態を示します。此の組立は捻子二本にて組立ち他に何等の工具或は技術を要しないのであります。

機械的寸法は下記の如くであります。

115×176×162mm (富士通信機 只木盛夫)

* Transmitter of Breast Telephone for Operator.

謹告

開放型三相誘導電動機 臨時規格ノ實施ニ就テ

弊社ニ於テハ、長期聖戰ノ下、資材節約第一主義ニ則リ、電氣機器ノ主要資材タル銅及ビ鐵鋼ノ節約調整ヲ圖ル爲、一般品ニ對シテハ日本電氣工藝委員會ノ制定ニヨル「電氣機器ノ溫度ニ關スル暫定標準規程」ヲ適用スルコトトシ、本年二月二十五日以降ノ見積品ヨリ之ヲ實施致シ居候。又、電動機、變壓器（五〇KV A以下）等ノ標準品ノ戰時特性ニ就テハ、電氣協會ニ於ケル決定ヲ俟テ順次實施致ス旨、曩ニ本誌三月號ニ發表致シタル處ニ御座候。

然ルニ今般右戰時特性中「開放型三相誘導電動機」ニ關シ、電氣協會ニ於テハ、八日會案ヲ採擇シ「JEA—三〇—Z 開放型三相誘導電動機臨時規格」トシテ決定セラレタルニ付キ、弊社ハ直チニ之ガ實施ニ着手致シタル次第ニ有之、此ノ新規格品ガ市場ニ現ハレ始マルハ本年十一月ト相成ルベク、以後六ヶ月ニシテ其ノ全般ニ及ブ見込ニ御座候。
右何卒各位ノ御諒解御協力ヲ賜リ度懇願仕候。

昭和十四年七月

富士電機製造株式會社

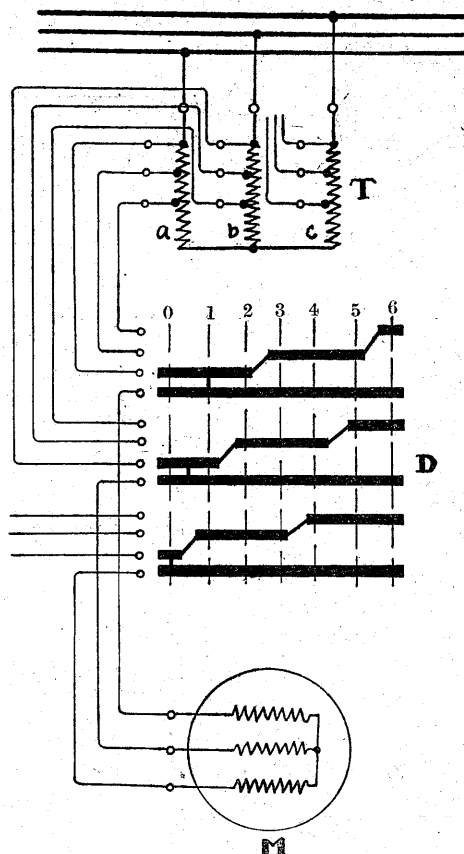
多相誘導電動機ノ速度制御裝置

(號實用新案第二六三三八一號)

多相誘導電動機ノ速度制御を其ノ固定子巻線ノ電壓を變化することによつて行ふ場合、從來は固定子一相ノみの電壓を適當ノ變成器で變化し或は同様變成器で各相同時に電壓を切換へることにより行つてゐたが前者では電壓ノ不平衡を來し後者では速度段階數と同一ノ變成器ノタップを必要とする等ノ缺點があつた。本案はこの缺點を除く爲め考案されたものであつて電動機と電源とノ間に接続された變壓器巻線ノタップ或は電動機ノ固定子巻線ノタップを切換へるのに各相巻線が同位タップにある状態より多相巻線ノ一部宛を次位タップに切換へる様な開閉裝置を設けることにより此ノ目的を達する様にしたものである。

圖面に就いて説明するとタップ付變壓器Tノ電壓を電動機Mに供給する際に開閉裝置Dにより其ノ0段に於ては變壓器Tノabc相共に最高同位ノタップが電動機Mに接続されてゐるが、Dノノツチが進むにつれcba相ノ順に一相宛一段下位ノタップが電動機Mに接続され第三ノツチではabc相共0ノツチの時より一段下位ノ同位ノタップが電動機Mに接続される。以下同様にして電動機Mノ電壓を制御し其ノ速度を制御する様に構成されてゐる。

それ故電壓ノ不平衡も小となり變成器ノタップ數も從來のものに比し少となる効果がある。(池上)





*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。